オプス・デイ属人区 長、南アフリカを訪 問

オプス・デイ属人区長は、南アフリカのヨハネスで訪問 アフリカアの2都市を訪問 し、オプス・デイが提供する トリスト教的形成の諸活動に 参加して、旅の要約と写真を 提供。

2013/06/07

南アフリカでオプス・デイの使徒職事業が始まり定着したのは1998年。現在、ヨハネスブルクとプレトリアにオプス・デイのセンターがある。さらに、ヨハネスブルク教区の「悲しみの聖母」教会という小教区の司牧が、属人区の神父たちに託されている。

属人区長エチェバリーア司教は、オプス・デイのメンバーおよびその友人たちと、首都にある「サンドトン・コンヴェンション・センター」で会合した。この家族的な集いのなかで、教皇と司教方、そしてすべての司祭たちのために祈るように願った。

参加者のうち何人かは質問することができた。その1人、チャールズさんは3人の子をもつ若い父親で、次のように尋ねた。「物質主義や何よりも安楽な生活を求める心に対し

て、どのように戦えばよいのでしょ うか」。

属人区長エチェバリーア師の答え。 「清貧というものは、ものを持たないことではなく、持っているものの ・の離脱することにあります。というの ・な変する覚悟があるということで ・なっ徳について、近年のの教皇 ・なったというの教皇 ・なったというの教皇 ・なった。 ・なずからお

また、カトリックに改宗したレボ医師が尋ねた。「積極的なキリスト教的生活と、一日の大半を占める仕事とはどのように両立できるでしょうか」。

「たとえ疲れていても、大変な一日であったとしても、祈りの時間を作り出さねばなりません。私たちの仕事や心配事について、…つまり私たちの人生について話してほしいと、

イエスが望んでおられるからです」と、エチェバリーア司教は教えた。

属人区長はこのほかにも、ゆるしの 秘跡やロザリオの祈りについて話し た。終わりに、参加者全員に周りの 人たちを大切にするように励まし、 他の人たちのために祈り、もてな し、本当に気を配るよう力づけた。

今回の旅行では、ほかにも次の予定が実施された。首都の教区長ブティ・ジョーゼフ・タガーレ司教との会談。「悲しみの聖母」教会への巡礼。プレトリアのオプス・デイのセンターにある祭壇を祝別。数組の家族との談話。大学生や社会人そして教区の司祭たちとの集い。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/opusudeishu-ren-qu-chang-nan-ahurikawofang-wen/(2025/12/19)